



恩師からの
お便り

(順不同)

藤田保健衛生大学名誉教授
愛知国際病院内科

鳥飼勝隆



奉職を終え、その三年の本年度で、内科の学部の感染症、膠原病を専門とする教室を創り上げ、それを後継者に託して幸いのことできることは幸である。

この期間、当然のことながら困難には多々遭遇したが、学園内外の多くの人たちの支えを受けつつ、それをクリアすることができた。

創設期の、つくられたばかりの施設や設備の中での診療、教育、研究をどのように進めていくか、試行錯誤を重ねていく。これは、学園の拡大、充実がみられる患者の増加からみては、医療者の内容を充実させるか、自己の医療技術をもより、病院の運営や環境に至るまで充実させていく、あきらめることなく意欲的保持と継承であったと思われる。

私たちがの学園においてもう、これから発展を継承する試金石の時期といえる。

初代の職員から、第二ないし三代の職員に代替わりしつつある現在、目にも見える施設や設備の充実と共に、働きの内容と質の充実にこそ主体的な働きが求められてくる。それは、非・学園の働きの充実と発展という大きな課題を実現し、欲しい、と願っている次第である。

学	園	の	働	き	の	充	実	と				
発	展	を	願	う								

藤田学園医学技術専門学院は開校当初の目的を達成し、臨床検査技師養成所としての使命を終えた。

[illegible]

前藤田学園医学技術専門学院長
藤田保健衛生大学短期大学名誉教授

若林 昭二

退職にあたり医学部の
の教育に思う



藤田保健衛生大学名誉教授
杉村 修一郎

今年三月末をもって二年。四月医学部教授として勤務した藤田医学部を退職しました。この間過なくまた楽しく勤務させていただけにこれは学園の皆様方ののおかげです。心から感謝しております。この二年間、にわたる医学部での勤務の中でも、最近の三年間は教務委員長として医学部カリキュラムの改革に取り組みとなりました。これについていいたい出を少々書き記して、あけぼの杉から原稿に依頼に対する責を果たしたいと思えます。従来、藤田医学部のカリキュラムは知識伝授型が主体で学生の主体的な学習意欲を刺激する点に欠け、また臨床実習においては見学が主体で、医療参加や治療手技の習得において甚だしく欠ける点がありました。しかし、学生はたびたびの試験や中間試験、期末試験などで追いまわられていたために、知識の習得においてはそれなりの成果が得られ、国家試験においても比較安定した成績を上げていました。しかし、平成元年以降厚生省、文部省などから相次いで医学教育刷新の方向性が示され、全国の科大生においてカリキュラムの改革が急がれるようとなりました。本学においてはすでにそれ以前からカリキュラム検討委員会を発足させてカリキュラムの再検討に着手してまいり、平成十一年春の「医師国家試験出題基準」及び同試験の出題省の「医学教育モデル・コア・カリキュラム（案）」の発表を受けて鋭意カリキュラム改訂の議論を進め、平成十二年度中に新たなカリキュラムの骨子を作成しました。このカリキュラムは平成十三年度で実施されるべく今年度で実施されていますが、これ従来の旧カリキュラムと比較すると、（一）第一学年以上に殊に人文科学系の教養科目を充実させた。（二）臨床科目の実教育の中で、*problem solving*（*problem solving*）などのように、学生主体的な学習を重視する教育を取り入れた。（三）臨床実習において、医療参加型の実習（*clinical clerkship*）に近づける努力をした。などの点が新たに取入れられています。したがってこの新カリキュラムは文部省や厚生省の指向往る新しい医学教育の方向に合致し、将来の医療療養上の問題に新しい医療技術の発達にも主体的に対応できる医師の養成を目指したものと云えます。この新カリキュラムを本学医学部で実施していくうえで心配な点は、学生諸君がどのようになっているのか、必要があるのではないかと、思いいます。長く本学医学部学生並に若くして医師の道と接し、てきて殊に最前線、思っ

新	天	地	の	本	学	卒	業	生	の	活	躍	に
喜	び	と	誇	り								



藤田保健衛生大学名誉教授
医療法人三九朗病院名誉院長
三浦 馥

科から本学採用されて二
四年余り勤め、本年（平成
十二年）三月三日付で定
年退職しました。

昭和五一年に着任したと
き、本学は大学院医学研究
科設置の許可を受ける前
で、早急に患者数を増やして大
学病院を充実させることが
重要な課題であると承りま
した。患者の紹介をお願い
に周辺の病院や医院に何日
もかけて、挨拶回りをし
て、これにの大学仲間関係
の先生方が多数の紹介をい
ただきました。消化器外科、
乳腺内・泌外科を中心に診
療を行い、症例数、手術数
の実績が年々増加するこ
とができ、病院の発展に少
しはお役に立てたと思つて
おります。

学内では、消化器内科
（伊藤園前教授、中野浩教
授、堀口祐輔教授）、内分
泌内科（長坂顕雄前教授）、
とくに、豊田市にあります。

血液内科（平野正美教授、
江崎幸治教授）、その他、各
科の先生方からのご協力
ご指示をいただきました。

研究面では、病理学竹内
純元教授（名古屋大学）に転
勤、とくにお世話になり、
腫瘍の間質系との腫瘍病理
学、癌の臨牀病理学の研究
も手掛けました。

医学部教授のほか、衛生
学部の講義も二〇年に上担
当しました。衛生看護学科
二年の外科疾患の私の講義
に親しく抱いてくれた学
生さんが多かったのか、年
度最終の講義の日にクラス
代表から教授へ花束プレゼ
ントを交わすことが数回あ
り、嬉しく思い出たと感じ
ています。藤田学園の皆様
の長年の厚意に心からお礼
を申し上げます。

四月一日からは、本学名
誉教授と称させていただきました
とともに、豊田市にあります。

三九朗病院に名誉院長とし
て勤動しています。三九朗
病院を創設された故加藤三
九朗先生（二代目理事長）は
加藤健先生（現理事長）の
私と同門の名第、外科出身
ですが、現在の病院の副
院長、内科部長、外科部長
リハビリテーション科部長
が本学医学部卒、また、理
学療法士、作業療法士の九
九〇名、臨床検査師四名、
放射線技師一名と本学卒
業生です。卒業生の職員は
皆、仕事熱心、患者さんに
は優しく接しており、藤田
学園に長年在籍した私にと
うに藤田学園と密接な関係
をもつ病院ですので、学園
の皆様、同窓生の皆さまに
はこれからとも思っています。
これができることと思います。
よろしくお願ひ申し上げます。

藤田学園
創設期の思い出



元藤田保健衛生大学短期大学教学局長
仙波 英雄

[illegible]

平成12年度		国家試験合格率	
		本学(合格者数)	全国平均
【医師】			
医学部	新卒	85.9%(79)	90.4%
	既卒	73.2%(30)	
	計	82.0%(109)	
【臨床検査技師】			
衛生学部【衛生技術学科】		95.1%(117)	69.4%
短期大学【衛生技術科】		97.3%(109)	
医学技術専門学院		66.7%(14)	
【看護婦・保健婦】			
衛生学部【衛生看護学科】看護婦・士		100%(48)	84.1%
	【衛生看護学科】保健婦・士	98.0%(50)	93.0%
	看護専門学校【看護科】看護婦・士	77.5%(69)	84.1%
【診療放射線技師】			
衛生学部【診療放射線技術学科】		100%(47)	72.1%
【作業療法士・理学療法士】			
リハビリ専門学校【作業療法科】作業療法士		100%(27)	94.8%
	【理学療法科】理学療法士	100%(33)	96.9%
【臨床工学技士】			
短期大学【専攻科】		100%(26)	79.3%

薬品、機器、備品の総合商社です

 **株式会社** **力** CAHC

Bio, Chemical, Diagnostics and Production

本社
名古屋市中区丸の内3-8-5 (〒460-0002)
Tel : 052-971-6533 (代表)
Fax : 052-972-7295
URL <http://www.cahc.co.jp>
E-Mail info@cahc.co.jp

優れた機能はそのままに、よりスムーズな操作で
より簡単な血糖測定を実現したデクスターZII。

なめらかタッチ

血糖測定機器

デクスター-Z II

医療器具許可番号：13B190075



輸入元：
バイエル メディカル株式会社
東京都渋谷区宮前1丁目19番1号

Bayer

医療用医薬品を提供して130年

私たちは、世界に通用する医薬品を開発・提供することを通して、お客様、社員、社会などに対する責任を果たすとともに、人々の健康に貢献してまいります。

 **鳥居薬品株式会社**
〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1

ホームページアドレス
<http://www.torii.co.jp>

ビタミン、どうしてとらえないといけないの？

● シオノギ製薬

小林製薬